人を、想う力。街を、想う力。
三菱地所

三菱地所設計
Mitsubishi Jisho Design

2026 年 8 月 28 日

報道関係各位

三菱地所株式会社
株式会社三菱地所設計

有楽町の未来を変える新たな都市空間を創出

「YURAKUCHO PARK」新築工事着工

～移設を前提としたサーキュラー建築、地下躯体を活かした人工地盤等、先進的な建築手法を採用～

三菱地所株式会社は、東京・有楽町駅前の「有楽町ビル」「新有楽町ビル」跡地（約 1 万㎡）で推進する「YURAKUCHO PARK」の新築工事を 2026 年 9 月 1 日に着工します。建築・空間設計は株式会社三菱地所設計が担当します。

「YURAKUCHO PARK」は、建物解体後すぐに新たな建物を建てるのではなく、次のまちづくりへつなげる準備期間を活用し、この場所、この期間だからこそ実現できる挑戦を行う「CHALLENGE」、国内外の多様なカルチャーを集積・発信する舞台を作る「CULTURE」、心が動き、出逢いが生まれる場をつくり、未来の礎を育む「PARK」をコンセプトに掲げ、「有楽町の未来を変える」新たな都市空間の創出に取り組みます。

なお、「YURAKUCHO PARK」では、世界的な建築家やクリエイターが手がける唯一無二の建築を中心に、土地の魅力を味わうパーソナルなサービスを組み合わせた体験を届けている NOT A HOTEL 株式会社が企画・デザイン・プロデュースとして参画し、同社による新プロジェクト「JAPA VALLEY TOKYO」を共同で展開予定です。「YURAKUCHO PARK」竣工および「JAPA VALLEY TOKYO」開業は 2027 年の予定です。

三菱地所設計は、135 年以上にわたり丸の内エリアの都市基盤整備や建築設計を担い、国内外の数多くのエポックメーキングなプロジェクトを手掛けてきました。今回、移設を前提としたサーキュラー建築や、地下躯体を活かした人工地盤の構築、防火地域における木造建築などの先進的な建築手法に、施工を担う大成建設株式会社とともに挑戦します。また、照明デザイン、ランドスケープ、植栽施工など各分野の専門家が加わり、日本の技術や全国自治体と連携して用意された素材の魅力と国内外からの多様なカルチャーを掛け合わせた空間を作り上げます。

計画地は有楽町駅前という丸の内エリアのまちづくりにおいて極めて重要な街区です。本プロジェクトを通じて、多様な人・文化・活動が交わる機会を創出しながら、新たな有楽町の可能性を探求し、次のまちづくりへとつなげてまいります。

▲丸の内エリア全体から見た「YURAKUCHO PARK」
有楽町駅前の「有楽町ビル」「新有楽町ビル」跡地(イメージ画像左手)に位置

■本工事の特徴 ― 都市開発における新たな施工手法への挑戦

「YURAKUCHO PARK」の新築工事は、以下のような、都心における前例のない設計・施工手法に挑戦するものです。本プロジェクトにおける主な技術的特徴は以下の通りです。

【人工地盤の構築】

暫定利用期間を創出するため、まず「有楽町ビル」「新有楽町ビル」地上部を全面的に解体。地下既存躯体を活かした地盤を構築することで、その上部での建築物の建設を可能としました。また、土砂の埋め戻しが不要となるなど、資源の削減にも寄与します。

▲人工地盤のイメージ画像

【防火地域における木造建築 ― 大丸有エリア初の大規模 CLT 建築】

本計画は、木造建築物の主要構造に CLT（Cross Laminated Timber、直交集成板）を採用するとともに、その活用可能性を広げるプロジェクトです。一般的には壁などの「面的な構造材」に用いる CLT を、柱や梁のような「線的な構造材」として使う先駆的手法で、11 棟の「アーチ門型架構棟」を整備します（令和８年度 CLT 活用建築物等実証事業に採択）。

国産スギ材を用いた CLT 総使用材積は約 480m³。延焼防止建築物の基準を満たすことで、都心の防火地域において 100 ㎡超の CLT「あらわし」の建築物をつくり出します。大手町・丸の内・有楽町エリアにおいて、この規模の CLT 建築群の展開は初となります。

▲CG パースは完成予想図です。
上記仕様は変更になる可能性があります。

なお、本計画では当社グループの三菱地所ウッドビルド株式会社が木工事に参画するほか、MEC Industry 株式会社が製造・販売する国産材を活用した資材を一部採用するなど、グループ各社の知見も活かした空間づくりを進めています。

【移設を前提としたサーキュラー建築】

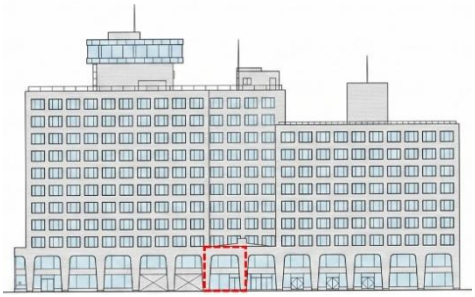
モックアップによる実験を経て、本計画では CLT によるアーチ門型架構を実現する新たな固定金具を開発・設計しました。本金具は CLT の全接合部の脱着を可能とし、有楽町での数年間の供用を経たのち、CLT 架構と敷地内で育てた植栽の一部は移設が可能な仕様です。建築材料の一方向的な消費ではなく、都市のあいだを木が循環する「サーキュラー建築」を実践します。暫定利用だからこそ、「壊さず移す」ための設計に投資する、新たな都市開発のあり方を提示します。

▲サーキュラー建築のイメージ画像

【新有楽町ビルの減築によるメトロ接続棟の整備】

新有楽町ビル（地上 14 階地下 4 階）は地上部を全面的に解体しましたが、東京メトロ有楽町駅 D2 出入口に接続する 1 スパンのみを、地下 2 階から地上 2 階まで切り出すかたちで存置します。大規模オフィスビルから、必要な機能を持つ 1 ブロックだけを構造的に独立させ、残りを撤去する「減築」に取り組んでいます。これにより、地上部の解体完了後も地下鉄との接続機能を維持し、暫定利用期間中の来街者アクセスを確保します。

▲有楽町駅側から見た街区のイメージ画像



▲減築のイメージ画像

■全国の自治体との連携 ― 地域資源を東京の玄関口から世界へ

国内外の多様なカルチャーを集積・発信する舞台である「YURAKUCHO PARK」では、全国の自治体との連携にも取り組みます。来街者に広く開かれた公共的な空間に、日本の地域が育ててきた物語のある素材・建材を採り入れ、世界の来街者に手触りや経年変化まで含めた「日本素材の本物の質」の体験を提供します。具体的には、ベンチや植栽の一部などに、12 自治体の地域資源を活用します。

なお、三菱地所は「TOKYO TORCH」においても地方自治体と連携し、日本各地の魅力を発信する取り組みを推進してまいりました。「YURAKUCHO PARK」においても、この考えを承継し、空間を構成する素材そのものから日本のものづくりを届けてまいります。

①	大館市（秋田県）	秋田スギ	⑦	奈良県	吉野杉
②	つくば市（茨城県）	芝	⑧	益田市（島根県）	ヒノキ
③	みなかみ町（群馬県）	カラマツ	⑨	高知県	土佐ヒノキ
④	湯河原町（神奈川県）	サクラ・ツツジ	⑩	仁淀川町（高知県）	ヒノキ
⑤	富士市（静岡県）	富士ヒノキ	⑪	湧水町（鹿児島県）	スギ
⑥	浜松市（静岡県）	天竜スギ	⑫	石垣市（沖縄県）	琉球松

※北からの順

■工事概要

工　事　名　称：（仮称）YURAKUCHO PARK 計画 新築工事
所　　在　　地：東京都千代田区有楽町一丁目
敷　地　面　積：新有楽町ビル跡地 約 7,233 ㎡
　　有楽町ビル跡地　 約 3,551 ㎡
構 造 ・ 階 数：木造（CLT 造）・S 造、地上 1 階
最　高　高　さ：約 5m
主　要　用　途：店舗（飲食・物販）、イベントスペース
開業予定時期：2027 年（2026 年 8 月時点）
公 式 サ イ ト：https://www.marunouchi-portal.com/yurakucho-park

役割		会社名
事業者		三菱地所株式会社
企画・デザイン・プロデュース		NOT A HOTEL 株式会社
設計・監理		株式会社三菱地所設計
施工	建築工事	大成建設株式会社
	電気設備工事	株式会社関電工
	衛生設備工事	株式会社城口研究所
	建築工事	株式会社舘林工業
	建築工事	A-style 株式会社
	ベンチ設置工事	三物建設株式会社
アート	アート設置	株式会社乃村工藝社
ランドスケープデザイン	外構植栽デザイン	株式会社 DAISHIZEN
		株式会社グリーンディスプレイ
照明デザイン	外構・外観照明計画	株式会社 Nosight
運営管理	PM 業務・イベントスペース管理	三菱地所プロパティマネジメント株式会社

（ご参考）

三菱地所は丸の内エリアのまちづくり「丸の内 NEXT ステージ」として、丸の内エリアの両翼に位置する「常盤橋」と「有楽町」を重点開発エリアに位置付けています。

常盤橋の「TOKYO TORCH」では日本一の高さとなる「Torch Tower」（2028 年度竣工予定）の建設を進め、有楽町の「YURAKUCHO PARK」では人々の創造性を解き放ち、文化と交流が生まれる都市空間づくりに挑戦。数年間の暫定利用期間だからこそ実現できる挑戦や価値創出を、将来の「有楽町ビル・新有楽町ビル建替計画」へと発展させていきます。加えて、「（仮称）丸の内３－１プロジェクト（国際ビル・帝劇ビル建替計画）」の再開発や「新国際ビル」のリニューアルなど、暫定利用・再開発・既存ビルリニューアルといった様々な手法を通じて、有楽町の再構築に取り組んでいます。

なお、2025 年 5 月に「丸の内 NEXT ステージ」における施策の一つとして、エリア全体をプラットフォームと捉え、テナント個社単独では実現しにくい取り組みをエリア全体で提供する「まちまるごとワークプレイス構想」を掲げています。

リリース：https://www.mec.co.jp/news/detail/2025/05/22_mec2500522_machi

＜丸の内“まちまるごとワークプレイス”構想＞

丸の内エリアの特性の一つは、135 年以上にわたるまちづくりを通じてお客様や
様々なステークホルダーと共に築き上げてきた「利便性と集積」です。
その特性を踏まえ、テナント企業が自社オフィスだけでは実現できないことや、
個社単独の取り組みでは実現しにくいことを「まちまるごと」でサポート、
エリア全体がプラットフォームとして機能することで、働き方の質や効率を高めます。

まちまるごとワークプレイスのイメージ ▶

以　上